

神戸大学学生震災救援隊

救援隊の始まり

阪神淡路大震災発生直後、1995年1月23日に救援隊は結隊されました。当時、神戸大学避難所内にいた学生を中心に、公的な支援が届きにくい場所にいる人たちを中心に支援を行っていました。そして、95年4月以降は、仮設住宅での取り組みや復興祭灘チャレンジの開催など、現在に繋がる活動が開始されました。

現在の活動の紹介

灘チャレンジ実行委員会



1995年に、八幡神社で「復興祭～NADA Challenge～」を開催して以降毎年恒例のイベントとなった。「NADA Challenge」とは、「灘のまちづくりに、学生が住民とともにチャレンジする」という意味を込めており、学生がまちの繋がりを主体的に創るイベントである。雨天やコロナ禍の影響で2019～2021年は開催できなかったが、2022年9月18日には都賀川公園にて3年ぶりに対面で開催することができた。

灘地域活動センター（N.A.C）

神戸大学総合ボランティアセンターによる大和仮設住宅での活動と救援隊の高羽仮設住宅支援活動が合流し、1997年に設立される。県営岩屋北町住宅とHAT神戸灘の浜集会所にて毎週お茶会を行い、コミュニティ形成を支援している。コロナ禍によってお茶会を開催できない時期においても、はがきのやりとりで住民さんとの交流を続け、現在は毎週土曜日のお茶会を再開することができている。



神大モダン・ドンチキ



不定期で結成されていた「チンドン屋」での賑やかな活動がグループ化して、2000年に結成された。プロのチンドン屋とも交流しながら、日本で有数のチンドン屋サークルへと成長した。コロナ禍によって、出演依頼が激減したが、その中でも学生のみでの練習は続け、2022年度においては多くの出演依頼を受け、地域を元気にできた。また、2022年の灘チャレンジにも出演した。

災害派遣活動

1998年に北関東豪雨水害への支援活動を行ったことから始まった。2007年～2011年ごろまでは「中越・KOBE足湯隊」という枠組みで足湯に入っている現地の方の手をもみながら傾聴する活動を積極的に行った。現在では、コロナ禍で1～2年ほど行けていなかった現地での活動を再開しており、2022年5月には宮城県丸森町でのサロン会、8月には宮城県山元町の夏祭りのお手伝いを行った。

